

#### (4) 卒業生追跡調査

SSH3期2年目の取組として、これまで卒業した桃山高校SSHの対象生徒全員に、卒業生追跡調査を実施した。設問の内容はJSTが実施している卒業生追跡調査を参考にした。今回の調査結果から、桃山高校のSSHが「国際的に活躍し得る科学技術系人材の育成」という点で有効であることを確認した。以下、調査結果の詳細について述べる。

1. 対象： SSH1期、SSH2期のSSH対象卒業生全員（計1,840名）  
※ 比較対象としてSSH以前の自然科学科生徒（計320名）も調査対象とした。
2. 調査方法： 依頼文： 封書郵送  
回答方法： WEBアンケート  
※ 依頼文にMicrosoft Formsで作成したWEBアンケートのQRコードを記載。  
※ 依頼文に該当学年の担任団の写真を掲載し、先生方へのメッセージを募ることで回収率の向上を図った。
3. 実施日： 依頼文の郵送： 令和3年8月7日  
回答期間： 令和3年8月7日～9月30日  
※ 卒業生の住所は桃山高校同窓会の協力を得た。  
※ 依頼文はお盆帰省の時期に合わせて卒業生の実家に郵送した。
4. 回答数： 有効回答数 n = 380（回答率 17.6%）
5. 検証： 対象卒業生を下記①～⑤の「指定期・学科別」に分類し、比較検証を行った。
  - ① SSH以前 自然科学科（平成20年度～平成23年度卒業）4年間計320名
  - ② SSH1期 自然科学科（平成24年度～平成28年度卒業）5年間計400名
  - ③ SSH2期 自然科学科（平成29年度～令和2年度卒業）4年間計320名
  - ④ SSH2期 普通科理系（平成29年度～令和2年度卒業）4年間計680名
  - ⑤ SSH2期 普通科文系（平成29年度～令和2年度卒業）4年間計440名

また、本校SSHが力を入れているグローバルサイエンス部（科学部）の効果把握するために「科学部への所属別」について比較検証を行った。

さらに、理系分野における女性の活躍について傾向を把握するために「理系卒業の男女別」についても比較検証を行った。

6. 結果： **【成果】**

以下の結果から、本校SSHの有効性を確認した。

  - ・ SSH実施前と比較して、SSH実施後に「大学院への進学率」「推薦入試の合格者数」「企業の研究者・技術者への就職」が向上している。
  - ・ SSH校での経験は、卒業後の進路選択に大きな影響を与えている。
  - ・ SSH校での在学中、科学に対する興味関心が大きく向上している。
  - ・ SSH校での在学中、科学技術に関する資質能力が大きく向上している。
  - ・ 科学部所属者のSSHに対する評価が高く、科学部は効果的である。
  - ・ 理系卒業男女別のSSHに対する評価に差は無く、男女同様に効果的である。

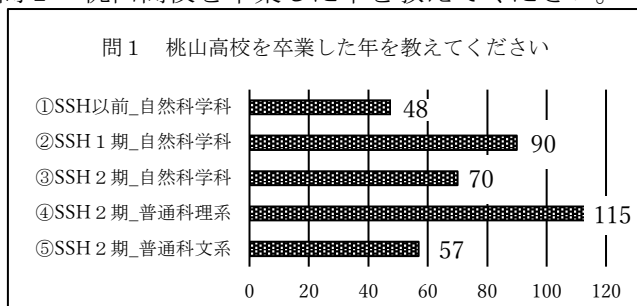
#### **【課題】**

- ・ SSH対象者の規模拡大に伴い、SSH事業の質の低下が一部で見られた。
- ・ 国際性の評価が他項目と比較して低い。

## 7. 結果の詳細

### (1) 「指定期・学科別」の傾向

問1 桃山高校を卒業した年を教えてください。



- ①SSH以前 自然科学科 n= 48 (回答率 15.0%)
- ②SSH1期 自然科学科 n= 90 (回答率 22.5%)
- ③SSH2期 自然科学科 n= 70 (回答率 21.9%)
- ④SSH2期 普通科理系 n=115 (回答率 16.9%)
- ⑤SSH2期 普通科文系 n= 57 (回答率 13.0%)

今回の調査全体の回答率は17.6%であった。回答率は低いが、回答数は各「指定期・学科」で約50人以上、計380人と十分な数を確保できたため、卒業生全体の傾向を反映していると考えられる。

回答率を検証すると、「①SSH以前\_自然科学科」「⑤SSH2期\_普通科文系」が比較的低くなっている。「①SSH以前\_自然科学科」の卒業生はSSHを実施しておらず、卒業から時間がたっているため、回答の意識が低くなったと考えられる。「⑤SSH2期\_普通科文系」はSSHの主対象だったという認識が低かったため、回答率が低くなったと考えられる。

問2 現在の状況について教えてください

	大学 学部生	大学院生 (修士課程・ 博士前期課程)	大学院生 (博士課程・ 博士後期課程)	短期 大学生	専修学生・ 各種学校生 (専門学校等)	大学校生	進学準備中	高校を 卒業後に就職
①SSH以前_自然科学科	0	1	2	0	0	0	0	0
②SSH1期_自然科学科	10	22	3	0	0	1	1	0
③SSH2期_自然科学科	<b>64</b>	0	0	0	0	3	1	1
④SSH2期_普通科理系	<b>104</b>	0	0	0	0	2	4	0
⑤SSH2期_普通科文系	<b>55</b>	0	0	0	0	1	0	1

	短期大学や 専門学校等を 卒業後に就職	大学学部、 大学校を 卒業後に就職	大学院を 修了後に就職	その他
①SSH以前_自然科学科	0	<b>24</b>	18	3
②SSH1期_自然科学科	0	<b>32</b>	17	4
③SSH2期_自然科学科	0	0	0	0
④SSH2期_普通科理系	3	0	0	0
⑤SSH2期_普通科文系	0	0	0	0

※ **太字**は各分類で最多の回答

「①SSH以前\_自然科学科」はほぼ全員が就職しており、大学院進学率は37.5%である。

「②SSH1期\_自然科学科」の大学院進学率は48.8%（大学学部生を除く）であり、SSH実施後に大学院への進学率が大きく向上したと言える。SSHの取組が理数系人材の育成に貢献した結果、大学院進学率が向上したと考えられる。SSH2期以降はほぼ全員が大学学部在籍しており、今後の大学院進学率に注目したい。

問3 大学・大学院を卒業された、または大学・大学院に在籍されている方にお聞きします。専攻分野は何ですか

	理学系 (数学以外)	数学系	工学系 (情報工学以外)	情報工学系	医学・歯学系	薬学系	看護系	農学系 (獣医学含む)
①SSH以前_自然科学科	5	0	<b>10</b>	0	3	2	0	8
②SSH 1期_自然科学科	14	0	<b>29</b>	0	4	4	0	13
③SSH 2期_自然科学科	9	0	<b>19</b>	0	3	5	0	8
④SSH 2期_普通科理系	13	0	<b>25</b>	0	1	2	0	9
⑤SSH 2期_普通科文系	0	0	0	0	0	0	0	0

	生活科学 ・家政学系	教育学系 (理数系)	教育学系 (理数系以外)	人文社会学系	法・政治・ 経済学系	芸術系	その他
①SSH以前_自然科学科	1	3	3	1	4	1	2
②SSH 1期_自然科学科	2	1	0	3	5	1	5
③SSH 2期_自然科学科	3	1	1	2	2	0	3
④SSH 2期_普通科理系	11	3	6	4	4	1	11
⑤SSH 2期_普通科文系	2	0	9	<b>26</b>	8	3	6

※ **太字**は各分類で最多の回答

自然科学科は「①SSH以前\_自然科学科」「②SSH 1期\_自然科学科」「③SSH 2期\_自然科学科」において専攻分野の分布に大きな変化は見られない。自然科学科の設立以来、卒業生の進路は大きく変化していないと言える。一方、普通科では、「④SSH 2期\_普通科理系」の「生活科学・家政学系」が自然科学科と比較して多くなっている。これは、普通科は女子の割合が多いためだと考えられる。「④SSH 2期\_普通科文系」では人文社会学系が最も多い。

問4 大学へ進学された方にお聞きします。進学方法は以下のどれですか。

	一般入試	A0入試	一般推薦	指定校推薦
①SSH以前_自然科学科	<b>46</b>	0	1	0
②SSH 1期_自然科学科	<b>81</b>	2	4	0
③SSH 2期_自然科学科	<b>56</b>	2	9	0
④SSH 2期_普通科理系	<b>69</b>	3	20	11
⑤SSH 2期_普通科文系	<b>29</b>	2	17	4

※ **太字**は各分類で最多の回答

SSH 1期以前はほとんどが一般入試による進学であったが、SSH 2期以降は「一般推薦」の進学者が増えている。これはSSH 2期以降に、学校全体でSSHの成果を希望進路実現につなげる取組を進めた成果と言える。

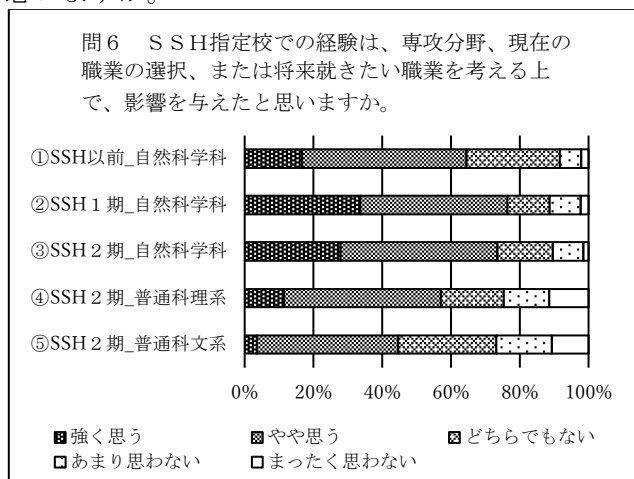
問5 現在就職されている方にお聞きします。現在の職業は何ですか。

	大学・公的 研究機関の 研究者	技術系の 公務員	企業の 研究者・ 技術者	医師・ 歯科医師	薬剤師	看護師	理数系の教員 (中学校・ 高等学校)	その他
①SSH以前_自然科学科	2	0	14	1	0	3	4	<b>16</b>
②SSH 1期_自然科学科	0	0	<b>25</b>	1	0	1	0	18
③SSH 2期_自然科学科	0	0	1	0	0	1	0	1
④SSH 2期_普通科理系	0	0	1	0	0	3	1	1
⑤SSH 2期_普通科文系	0	0	0	0	0	0	0	1

※ **太字**は各分類で最多の回答

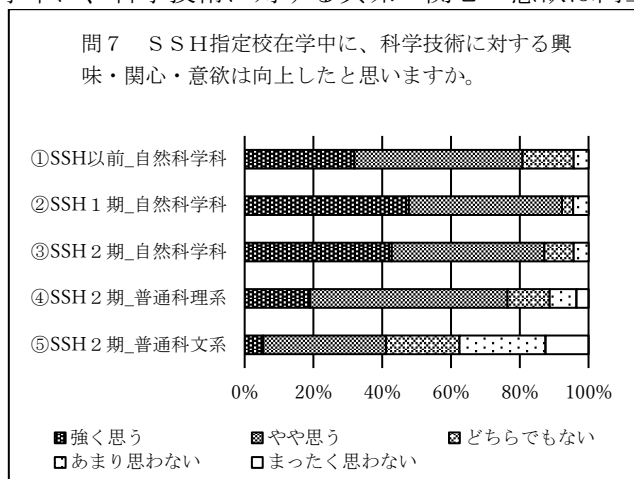
現在の職業は「①SSH以前\_自然科学科」は多岐に渡っており、「その他」の回答が最も多かった。「②SSH 1期\_自然科学科」では「企業の研究者・技術者」の回答が最も多くなっており、SSH事業が理数系人材の育成という点で効果的であることが裏付けられた。現時点では回答数が少ないため、今後の動向に注目したい。

問6 SSH指定校での経験は、専攻分野、現在の職業の選択、または将来就きたい職業を考える上で、影響を与えたと思いますか。



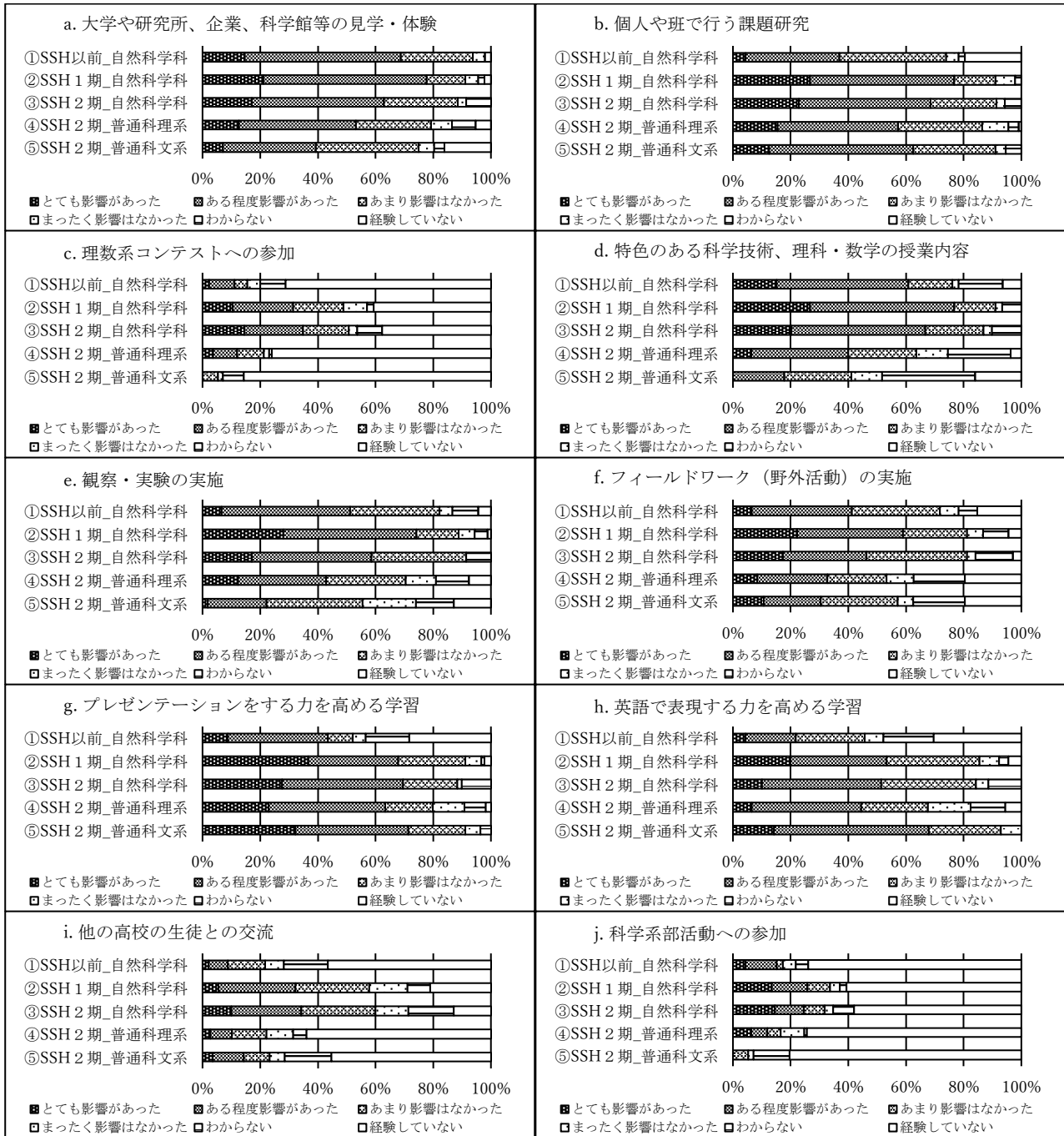
自然科学科の肯定的回答の割合は、SSH実施以前の「①SSH以前\_自然科学科」は約65%であるのに対し、SSH実施後の「②SSH1期\_自然科学科」「③SSH2期\_自然科学科」は約75%に増加している。SSHで実施した多様な経験が生徒の将来に大きく影響を与えていることがわかる。一方、普通科の肯定的回答の割合は、「④SSH2期\_普通科理系」が約55%、「⑤SSH2期\_普通科文系」が約45%であり、自然科学科と比較して低くなっている。普通科はSSHを目的に入学した生徒の割合が小さく、SSH事業の実施数も少ないためだと考えられる。一方、SSHにあまり期待していなかった生徒の約半数にSSHが影響を与えたとも言える。

問7 SSH指定校在学中に、科学技術に対する興味・関心・意欲は向上したと思いますか。



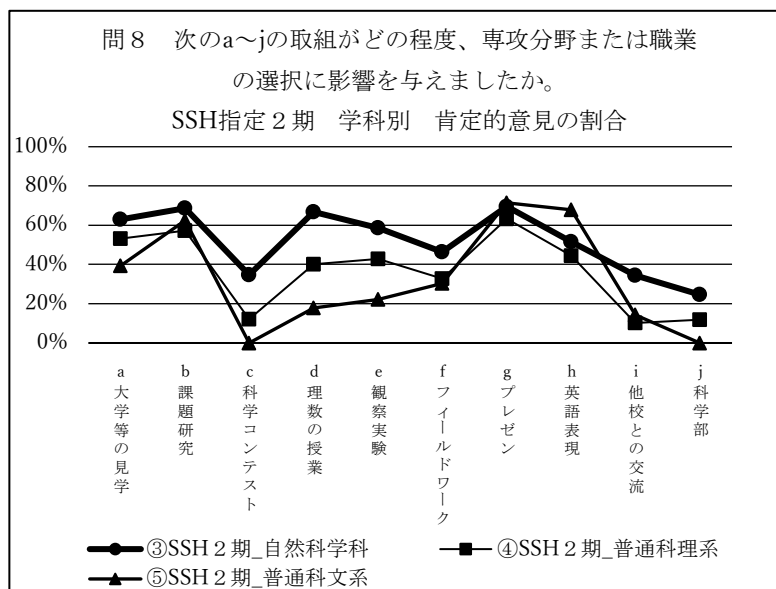
肯定的回答の割合は、自然科学科「①SSH以前\_自然科学科」「②SSH1期\_自然科学科」「③SSH2期\_自然科学科」は80%以上、普通科理系「④SSH2期\_普通科理系」は約80%と高くなっている。SSHの実施の有無や内容に関わらず、桃山高校の理系カリキュラムは科学技術に対する興味・関心・意欲を向上させていることがわかる。一方、普通科文系「⑤SSH2期\_普通科文系」は約40%と小さく、今後の課題である。

問 8 次の a~j の取組がどの程度、専攻分野または職業の選択に影響を与えましたか。



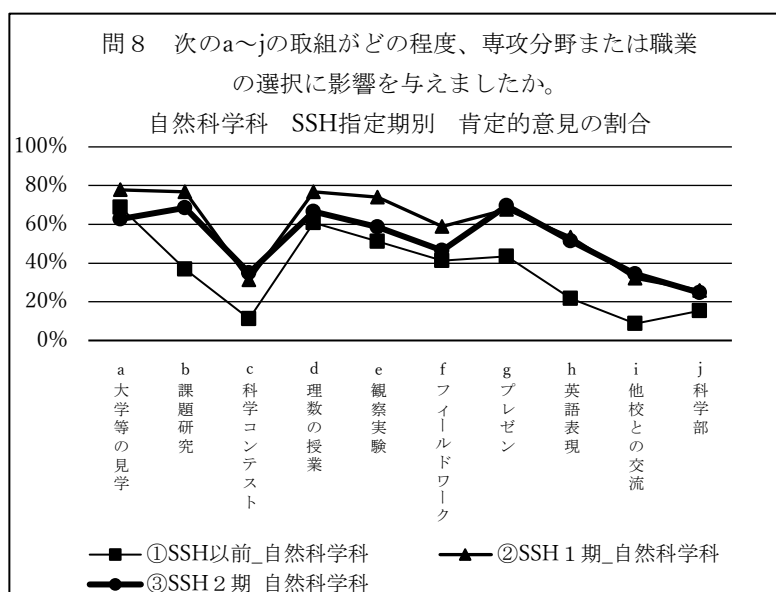
(a) 自然科学科 肯定的回答の割合（指定期別）

- 全体的に肯定的回答の割合は、「①SSH以前\_自然科学科」は低く、「②SSH 1期\_自然科学科」「③SSH 2期\_自然科学科」は高くなっている。SSHの実施が、進路選択に大きな影響を与えていることがわかる。
- (a)(e)(f)の項目で「②SSH 1期\_自然科学科」よりも「③SSH 2期\_自然科学科」が低下している。これらの項目は校外学習や体験授業である。本校ではSSH 2期からSSH対象生徒を普通科にも拡大したため、自然科学科のSSH取組数が低下したことが原因であると考えられる。学校全体の教員数や時間などリソースは限られており、SSHの対象者を拡大することに伴う質の低下は大きな課題であると言える。

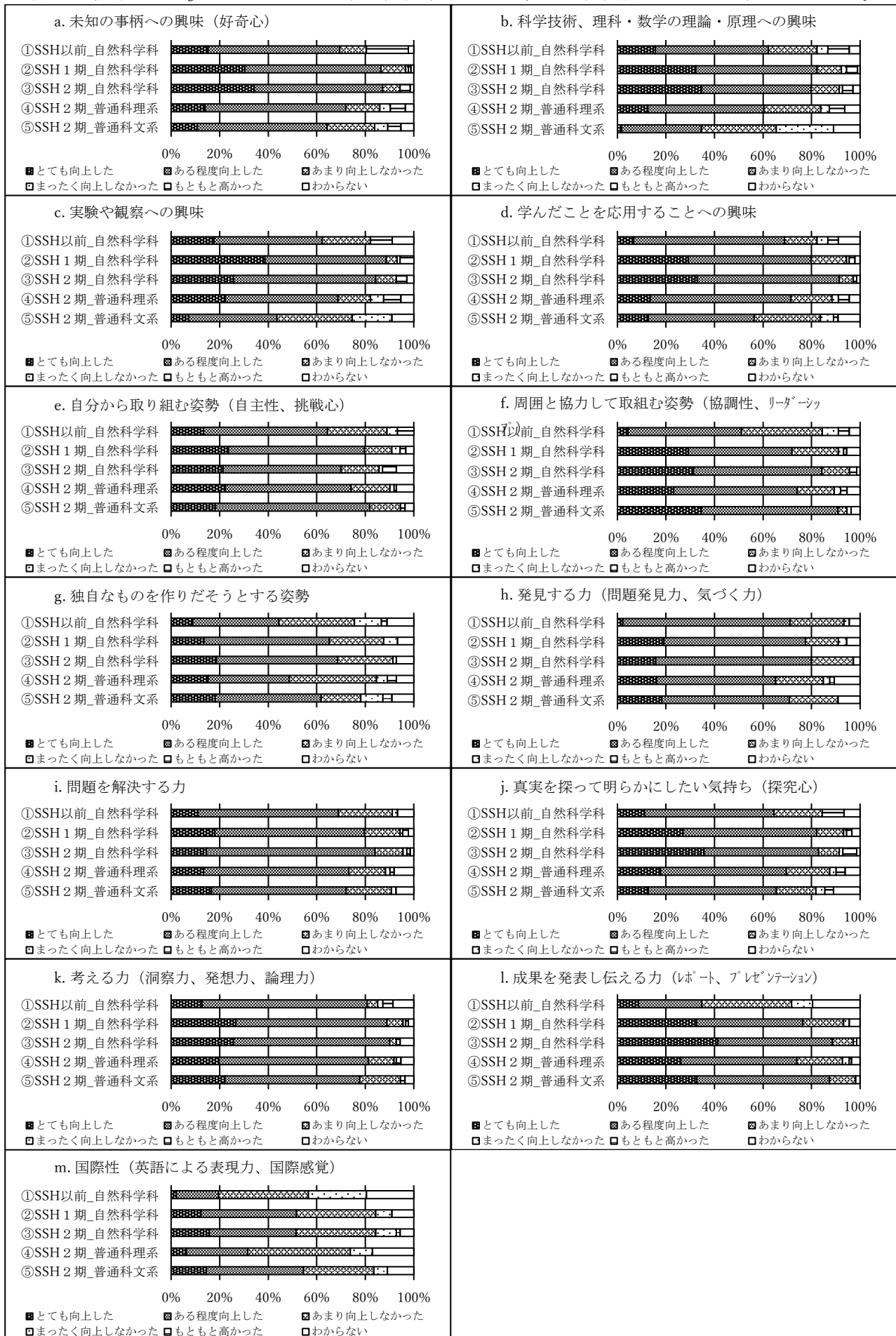


(b) SSH指定 2期 肯定的回答の割合（学科別）

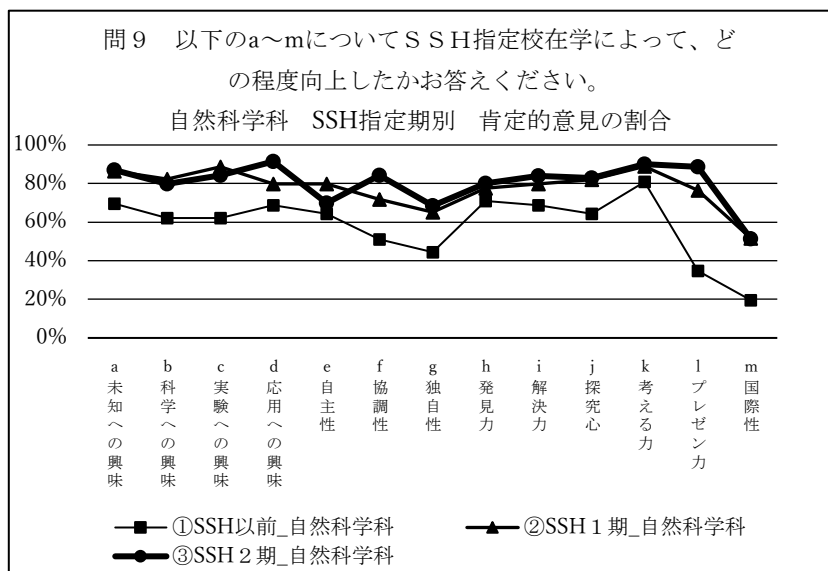
- 「a. 大学や研究所、企業、科学館等の見学・体験」は「③SSH 2期\_自然科学科」「④SSH 2期\_普通科理系」で50%を超えている。校外での体験学習が進路選択に大きな影響を与えていることがわかる。普通科文系に対する同様の取組実施が課題と言える。
- 「b. 個人や班で行う課題研究」は全ての学科で50%を超えており、SSHを全校体制で実施している成果と言える。課題研究が進路選択に大きな影響を与えていることがわかる。文系においても探究型学習が有効であることを示している。
- 「g. プレゼンテーションをする力を高める学習」は全ての学科で50%を超えている。本校SSHでは1年生、2年生の全員が課題研究で口頭発表を経験しており、プレゼンテーション力の育成は進路選択に大きな影響を与えていることがわかる。
- 「h. 英語で表現する力を高める学習」は全ての学科で約50%を超えている。特に普通科文系の値が高い。英語表現力の育成は進路選択に大きな影響を与えていることがわかる。
- 「他の高校の生徒との交流」は小さくなっている。本校のSSHでは他校との交流が少ないことが原因であり、今後の課題である。



問9 以下のa~jについてSSH指定校在学によって、どの程度向上したかお答えください。



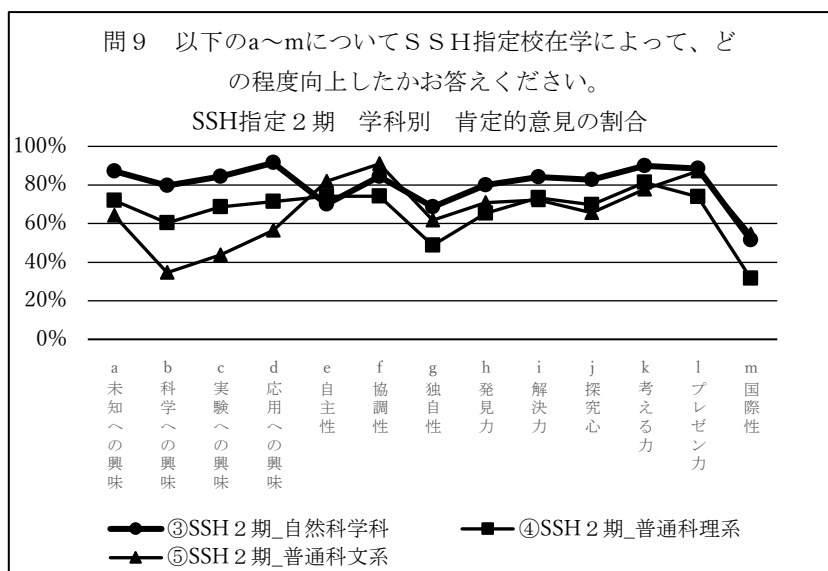
(a) 自然科学科 肯定的回答の割合（指定期別）



肯定的回答の割合は、SSH実施後の「②SSH 1期\_自然科学科」「③SSH 2期\_自然科学科」はSSH実施前の「①SSH以前\_自然科学科」よりも大幅に高くなっている。これはSSHの大きな成果だと言える。一方、「①SSH以前\_自然科学科」の回答者はほぼ社会人であり、高校教育内容に対する評価基準が学生と異なる可能性がある。例えば、社会人はより実践力や応用力が求められるため、興味関心に対する評価は低くなると考えられる。また、プレゼンテーション力や国際性も社会人に求められるレベルが高いため、評価は低くなると考えられる。

「②SSH 1期\_自然科学科」よりも「③SSH 2期\_自然科学科」が全体的に高くなっている。SSHカリキュラムを検討し充実させてきた成果が表れていると考えられる。「m 国際性」が他項目よりも低く、今後の課題である。また、「e 自主性」が1期から2期にかけて低下している。課題研究や体験学習が教員による教え込み型になっている可能性があるため検証が必要。

(b) SSH指定2期 肯定的回答の割合（学科別）



全体的に肯定的回答の割合は、「③SSH 2期\_自然科学科」「④SSH 2期\_普通科理系」「⑤SSH 2期\_普通科文系」の順に高くなっている。高校入学時のSSHに対する期待や、高校在学中のSSH取組数に応じた結果となっている。

「⑤SSH 2期\_普通科文系」の「e 自主性」「f 協調性」が高くなっている。これは課題研究のグループ活動に対する評価と考えられる。文系においてもグループによる探究型学習が有効であることを示している。



問 11 進路選択に際して、SSH指定校に在学して良かったことがあれば、具体的な内容とその理由をお書きください。

② SSH1期\_自然科学科

- 総合的に科学分野を学べたことが、大学、社会人での活動の基礎として大いに活きた。特に大学では、多角的な視点から物事を考えることができ、高校身につけたことが役立ったと思う。
- 元から進路は決めていたが、SSHで定期的に科学に触れられた経験は科学的思考を自分の中で育むことができ、実際現在もその考え方は医療を勉強するにおいて役立っている。
- 課題研究で自主的にテーマを決め、データを集めて考察する事で、大学・大学院での研究に役立った。
- 実験系の研究分野を専門とすることを決定する上で、SSH活動における楽しかった経験がその一因になったと考えております。”
- 課題研究やサイエンスキャンプといった理科教育を通して、科学の楽しさや辛さを経験できた。また、オーストラリアに行かせてもらえて、英語学習意欲は底上げされたように思う。
- 今は海外転勤のあり得る研究職として働いているが、この進路を選ぶにあたっても少なからず影響があったと思う。”
- 様々な研究を行ったり、またそれらを発表する機会がたくさんあったことが良かったと思います。大学の研究室での活動の中でそれらの経験が活かされました。”
- 科学に関する様々な体験(生徒が主体的に取り組む課題研究や、大学と連携した研修・実験の体験などができたため。実際の体験に勝る教育はないと思います。
- グループで課題研究をした経験が今でも非常に印象的で、大学での研究室活動等にも生かすことができたと思います。また、オーストラリアへの修学旅行で現地の学生さん達と交流できたことも、貴重な経験ができたと思っています。
- 合同の研究発表の場で多くの分野の研究に触れ興味の幅が広がった、質疑応答で考察力や言語化する力が得られた
- 在学して良かったことは、科学に関連する課外活動が多く、受験勉強だけではなかったことだと感じております。就職後に、同期の高校時代を聴く機会がありましたが、進学校だとしても、自由に科学を探究できるカリキュラムがなかったように感じました。また、英語を活用する機会が多かったのも、特色であったと感じております。
- プレゼンテーションの基礎が学べたことが良かったと感じている。大学在学中はもちろん、卒業後どのような就職先に進んでも多かれ少なかれ必要な能力であったと思う。大学でももちろん学ぶ機会はあるが、初歩的なことがすでに出来上がっていることによるアドバンテージはあったと感じている。
- 高校での学びを通して、科学や技術に興味を持ち、大学での専攻や就職先を決めるきっかけになったからです。
- 様々な研究機関の見学をさせていただけたこと。特に、一年生の時からSpring-8など最先端の研究設備を見学することができたことが良かった。将来理系に進みたいという気持ちが強くなり、実験や研究に対する抵抗がなくなったため。
- PCR法など、学校の環境下ではおこないきいことを外部の方を呼んで実際に実験を行うことが出来たことは良かった。普段は教科書で学ぶだけだから、実際にすると知識だけじゃなくて経験もつくので良かった。

③ SSH2期\_自然科学科

- 課題研究で薬剤の合成を体験できたところで、医学系分野への興味がさらに高まった。
- スーパーカミオカンデの見学など、普通ではなかなか行くことができない場所に行けたこと。また、グローバルサイエンス部や自然科学科では、理科好きな人が比較的多く集まり、理科について語り合うのが楽しかったから。
- 科学に興味を持つ・思考力に長けている同世代の存在を身近に感じたこと
- 他の学校では経験できない特有の形態での授業。著名な科学者の講演をお聞きしたりなどの経験。
- 大学との連携プログラムでやったことが、今の専門分野に活かされている。
- 自分の好きな理系科目について、1年間自由に研究できたこと。今の学部学科を選んだきっかけの1つにもなった。
- なによりも英語でプレゼンをする機会が複数回あったのがよかったなと思います。
- 高校時代から大学構内に入って体験学習等ができたので、志望大学を選ぶ際に自分が大学に求めるもの等が明確になっていた。
- グローバルサイエンス部の夏休みや冬休みの合宿、総合文化祭の参加によって、今専攻している宇宙物理・気象分野の様々な施設に高校生の時に行くことができたところ。今まで経験したことがなかったことをいろいろ体験することができたところ。
- 高校二年生の時に授業内で行った課題研究の自由度がとて高く、好きなようにやらせて頂き、したいことを伝えたら助けて頂き、この研究の過程と結果、そして発表から得た経験が自身が受験したAO入試にとても役立った。何より楽しかった。

④ SSH2期\_普通科理系

- 普通科の学生でも、GS部に所属することでSSHの活動を体験することが出来たこと。
- 名古屋工業大学に推薦でいったのですが、SSHの一環で行ったスライムの研究活動が非常に面接官への受けが良かったです。高校で軽くでも研究活動をしたというのが、好印象を与えたように思えます。
- 課題研究は他の高校にはあまり無く、本格的で、大学での実験や研究に繋がる内容だったと思うので良い経験になったと思う。
- 友人や先生など自分の周りに、そのような科学や研究を愉しむ人たちがいることが当たり前の環境で過ごせたことが良かった。
- SSHならではの授業を受けたり、行事に参加したりできたのが良かったと思います。楽しかったのもあるし、様々な経験ができたこともあって、良いと思います。
- 「琵琶湖の水を探る」というイベント?に参加しました。実際に琵琶湖の水を飲んだことは今でも忘れません。実際に体験できることは良かったと思います。
- 課題研究では、大まかな研究の流れや、研究発表をする際の注意点、例えば文献を引用する際気をつけることなどを知ることが出来たので、大学に入ってから活かせそうなことを学べて良かった。

⑤ SSH2期\_普通科文系

- 文系でも理科系の知識について詳しく学ぶことも出来たし、発表する機会がたくさんあったのでいい経験になった。
- 課題研究の授業がとて良かったです。なぜなら、自分が興味をもっている分野の研究をさせて頂くことで、さらに興味が深まったからです。

問 12 S S H指定校に在学したことで、あなたの周りのS S H指定校出身でない人と比べて、違いを感じるがあれば、お書きください。

### ② S S H 1 期\_自然科学科

- 物事に疑問を持つという経験を高校生のうちからできるのはSSHならではの感覚だと感じた
- 教科書の内容にはない、フィールドワークや見学等、科学についての経験値が高いと感じた。またプレゼンテーションの力も身につけていて、大学ですらに多くのことを学ぶ基礎力があると感じた。
- 研究等に取り組む時の主体性や、思考の早さは少し勝っている気がする。
- 周りのS S H指定校でない人の中には、未知の事象や難問に直面すると思考停止してしまう人がいる。私はとりあえず調べてみよう、とりあえず実験してみようと能動的に動くことができた。”
- 論理的思考を身につけることができた
- 課題研究でなかなかうまく実験が進まないことがあったため、現在の研究において簡単には諦めないと思う。
- 大学での、問題解決学習で周囲との差を感じた
- グローバルサイエンス部に所属したことで、プレゼン発表の企画力や作成スピード、アドリブ力等全てにおいて高い能力を持ってたと感じます。また、広い分野の実験や検証を行っていた経験から就職後に他学部出身の人との会話の足がかりになったり、就活中の面接アピールになった点は強みになったと思います。
- 理系大学出身営業職の同期よりも、製品や製造方法についての知識への理解も早く、新しい知識への開放性も高かったと思う。
- “指定校とそれ以外では実験、フィールドワーク、見学などの数が圧倒的に違う。同じ理系分野に進んだ人の中でも、SSH指定校に在学しこれらの経験を得たことでより目的を見極めて大学生活を送ることができたと感じた。また、SSH指定校ならではのスライド発表やその元となる文章力についての学習は、これらに重点を置いていなかった高校出身者と比べて明確な強みを与えてくれた。”
- SSH指定校は、周りの人達が科学に興味がある人が多く、刺激を受けました。
- 基礎的なことでも、ある程度思考が必要なことでも、その処理速度がSSH指定校出身の人の方が早いと感じる(自分自身込み、周りのSSH指定校出身の人を見て思う)
- 大学院の進学率。SSH指定校出身でない人と比べて、明らかに大学院進学率が高いと感じます。高校時代の友達はほぼ全員が大学院へ進学したが、現在の研究室メンバー(SSH指定校出身でない)は「私の友達はほとんど大卒で就職した」と言っていました。貴校と同程度の偏差値の高校であっても、SSH指定の有無で院進率が異なると感じています。
- 周りに流されて大学院に進学する人もいる中、SSH指定校出身者は明確な理由を持って進学する人が多い印象です。また、研究に対しても熱心に取り組む、学会への参加も積極的な人が多いと思います。
- 学会ではプレゼン能力や質問対応、研究室内では実験条件の設定や課題発見力が上手な人が多いです。特に学会発表では、上記を感じて尋ねてみるとSSH指定校出身者である事が多い印象です。そもそものモチベーションの差からも、自分から積極的に動く人が多いと思います。”

### ③ S S H 2 期\_自然科学科

- “科学について、受験勉強だけでは得られないことができない、他分野に渡る多角的な視点を持つことができたように感じる。物化地生に分割してしまうことで視野が狭くなってしまいう受験の欠点を補っている。例えば受験科目が生物選択である者が、物理や工学系への興味を持ち、異分野融合的研を妄想するなど。
- 高校の頃にプレゼンテーションやポスター発表など、多くの経験を積めたこと。
- プレゼンテーションが強い人(面倒だと言いつつもしっかり準備していた)はだいたいSSH出身でした。
- 実験をしたあとにどのようにまとめるべきかや、その発表の仕方について高校のときに学んでいたこともありかなり役立ち周りを見てもやったことがあるのと無いことでは違うのだと思った。
- 他の学校では扱わないようなマイクロピペッターなどの実験器具を高校の実験で使っていたことにより、操作に慣れることができたということ。大学での実習をよりスムーズに進めることができたし、より理解することができたと感じる。また発表活動に関しても、パワーポイントの扱いや発表の慣れという点で違いを感じた。
- 英語で外国人と話す機会が臆することなく話せる点において、違いがあると感じる。
- 好奇心や探究心、考えるなど、SSHで向上した力の違い
- 科学に触れる機会が他より多かった事を実感しました。
- 論理的な思考力がある気がする

### ④ S S H 2 期\_普通科理系

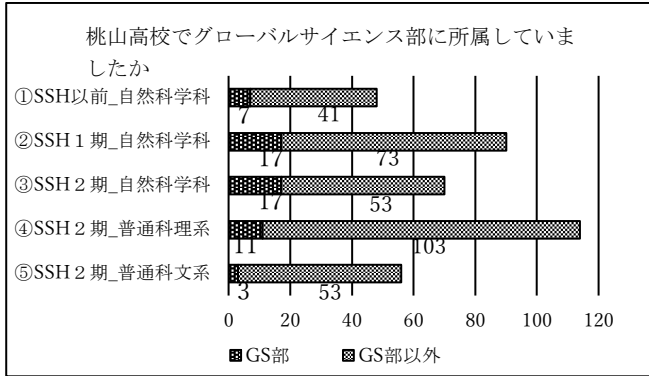
- 高校では自分の周りに学びに対して真剣に向き合う人たちがたくさんいたため、大学での個人研究やレポートでは質の高いものを最後まで追求する姿勢が当たり前で望むことができていると感じる。
- 大学でのプレゼン等、とてもスマートにできています。在学中に当たり前と思っていた事が、とても貴重な体験であった事を実感しています。
- 自分は2年生の時シンガポールに行かせていただいてかなり自分にとっていい経験になり、人生の宝物である。この経験は他校では出来なかっただろうと思う。
- 論理的に考えることができる。
- 課題研究における問題の立て方を知っていてとても良かったと感じる
- 課題研究に取り組む機会をいただいた経験が、自身の成長につながっていると共に、新しい事に挑戦する自信にもなっている

### ⑤ S S H 2 期\_普通科文系

- 大学でのグループワーク時に、主体性を持って行動することができ、まとめ役や書記を担当することが多くなった。
- SSHは、高校生のときは、理系のためのものだと思っていた。しかし、ふり返ると、文系の私にもメリットはあった。高校のときの、科学技術や、理科の知識、体験があったからこそ、今でも理科系の科目に興味をもっているし、高校生のときの経験は自分の財産になっている。また、課題研究は、今の大学の学びの基礎となっているとも思う。”
- プレゼンテーションを論理的に組み立てる能力は異なると感じる。また、他の文系出身学生と比べ、理系分野に触れることが多かったことは自身の視野を広げることに繋がったと感じる。

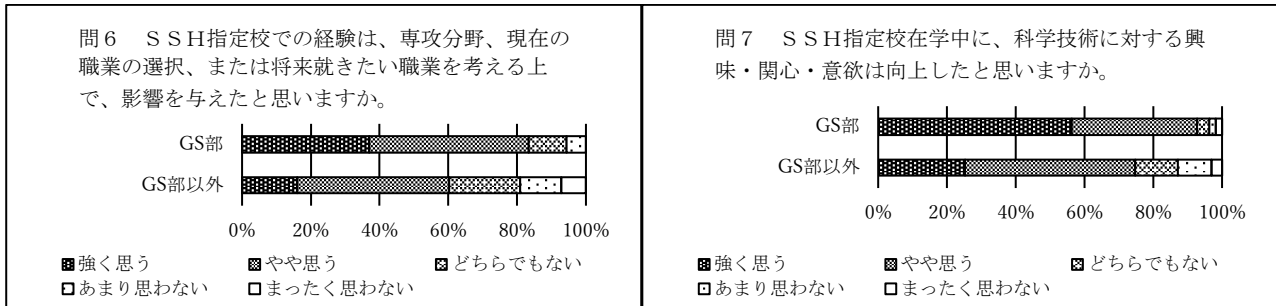
(2) 「グローバルサイエンス部（科学部）への所属別」の傾向

本校では理数系のトップレベル人材を育成するために、グローバルサイエンス部（科学部）の活動に力を入れている。従って、これまでのグローバルサイエンス部の効果を検証するために、今回の調査において、グローバルサイエンス部（科学部）の所属別の傾向について検証を行った。

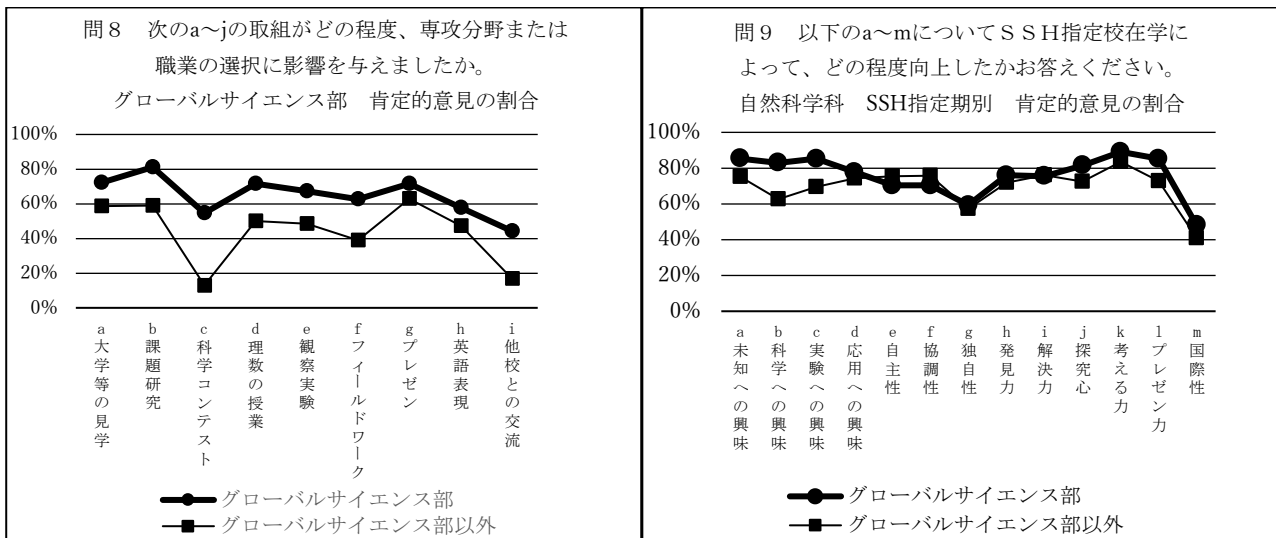


- ①SSH以前 自然科学科 n= 7 (所属率 14.8%)
- ②SSH 1期 自然科学科 n= 17 (所属率 18.9%)
- ③SSH 2期 自然科学科 n= 17 (所属率 24.3%)
- ④SSH 2期 普通科理系 n= 11 (所属率 9.6%)
- ⑤SSH 2期 普通科文系 n= 3 (所属率 5.4%)

今回の調査において科学の所属者は全体で約5%であった。本校では長年、グローバルサイエンス部（科学部）が活発に活動しており、十分な数を確保できたため、卒業生全体の傾向を反映していると考えられる。



「進路影響」、「科学への興味関心」の両面で、グローバルサイエンス部の肯定的回答の割合が高い。

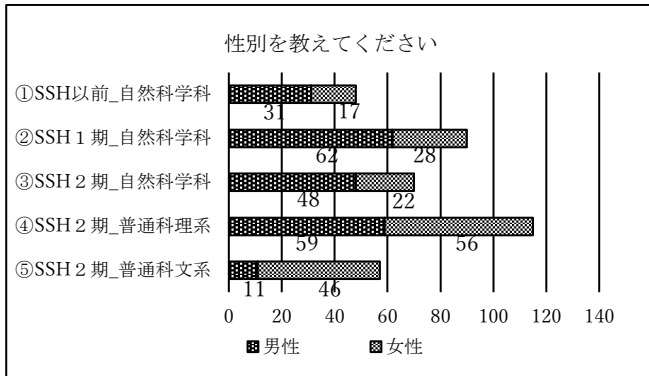


全体的にグローバルサイエンス部の肯定的回答の割合が高い。特に「科学コンテスト」「他校との交流」で大きな差が出ており、科学部での活動の成果が見られる。一方、「m 国際性」はグローバルサイエンス部所属者も低くなっており、今後の課題である。

以上の結果から、本校のSSHにおいてグローバルサイエンス部の活動は大変効果的であると言える。今後、海外の高校との共同研究やGS海外研修など、国際的な取組を推進していく。

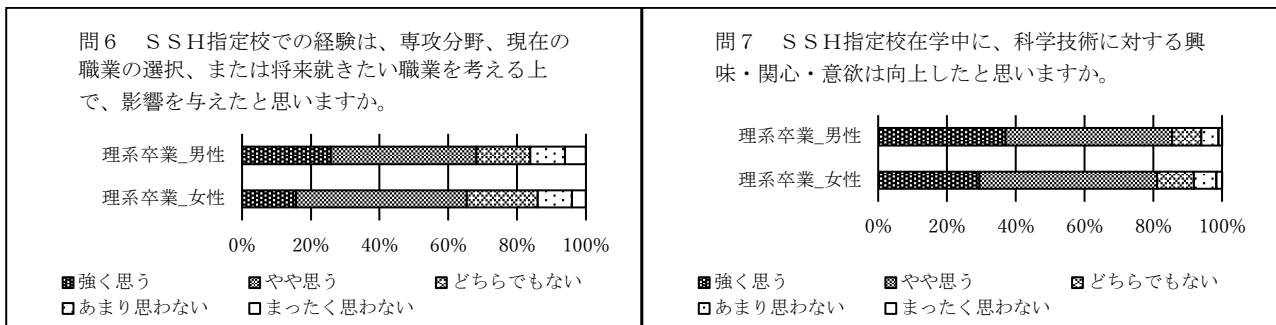
(3) 「理系卒業の男女別」の傾向

文部科学省は理系分野における女性の活躍推進を提唱している。一方、本校のSSHは男性教員が中心となって企画推進しており、男性視点のSSH事業になっている可能性がある。従って、今回の調査において、男女別の傾向について検証を行った。

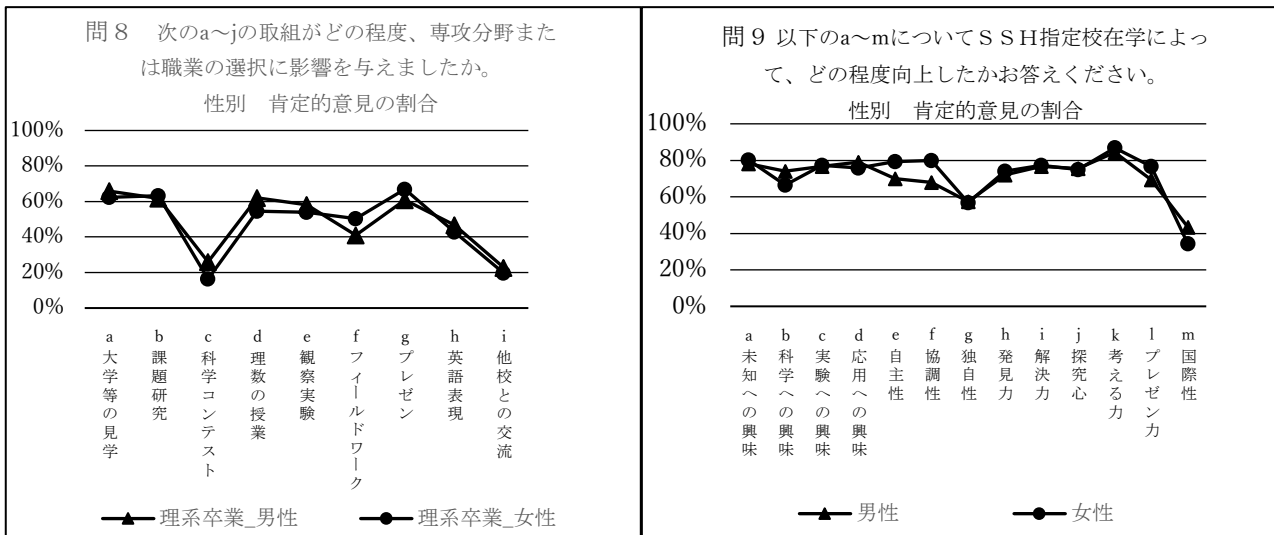


- ①SSH以前 自然科学科 (男性 65%、女性 35%)
- ②SSH 1期 自然科学科 (男性 69%、女性 31%)
- ③SSH 2期 自然科学科 (男性 69%、女性 31%)
- ④SSH 2期 普通科理系 (男性 51%、女性 49%)
- ⑤SSH 2期 普通科文系 (男性 19%、女性 81%)

今回の調査において、男女の回答者の割合は生徒割合とほぼ同じであり、卒業生全体の傾向を反映していると考えられる。理系は男子、文系は女子の占める割合が高くなっているため、以下は理系卒業（自然科学科と普通科理系）の男女別傾向について検証する。



「進路影響」、「科学への興味関心」の両面で、男女別の肯定的回答の割合はほぼ同じである。



全体的に男女別の肯定的回答の割合はほぼ同じである。「e 自主性」と「f 協調性」で女性の肯定的回答の割合が少し高くなっている。本校のSSHはグループ活動の割合が高く、グループ活動における自主性や協調性の評価が女性で高いと考えられる。

以上の結果から、本校のSSHは男女同様に効果的であると言える。今後も性別による取組の差が出ないようにSSH事業を推進していく。